

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	宮崎キャンパス	開設学科	健康栄養学部		
科目名称 [英語名称]	教職概論 [Introduction to the Teaching Profession]			実務経験 教員担当	アクティブ ラーニング	○	
科目コード	750064	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	植村 秀人			学位授与の方針との関連			
授業概要	<p>教育職員免許法では、教員免許状取得のためには、「教職の意義などに関する科目」の履修を課している。教員の仕事を考えるときに現代は、教員の協力が重視されている。これは、同一学校の教員間だけでなく、同校種間や異なる校種間に置いても同じである。本科目では、学校間の連携の視点も含めたなかで、教師の仕事について学ぶこととする。このことによって、中学校、高校、栄養教諭という狭い範囲だけでなく、日本の公教育全体における教諭の役割を踏まえた教師の資質を育てることにつながる。</p> <p>また、本講義は、教職課程導入科目である。このため、教育職員免許法で指定されている内容は当然行いが、上記の中でも重要な3年間の学習に必要な、教職への意識や意欲を形成し高めることも目的とする。</p>						
関連する科目	(教養科目)哲学・社会学・社会と経済、(教職科目)教育学・教育社会学(学科開講科目)生涯学習概論						
授業の進め方と方法	本授業は、講義形式で実施する。一部の回では、受講者同士の意見交換などを取り入れ、受講者が主体的に学ぶようにする。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師へのイメージ①～教師の歴史と教師へのイメージ</li> <li>2. 教師へのイメージ②～なぜ教師を目指すのか(教師への眼差し) 教職へのイメージの理解や受講学生の教員を目指す意識を高めることを目指します。</li> <li>3. 教師の仕事①～中学校・高校の教員の仕事</li> <li>4. 教師の仕事②～学校間(幼稚園・小学校・中学校・高校)の関連性の視点から</li> <li>5. 教師の仕事③～他領域との関連(チーム学校を含む) 教員の仕事について一通りの理解をしながら、教育改革や社会からの要望で仕事のありようが変化してきていることを理解します。</li> <li>6. 教師と児童・生徒①～いじめ、体罰、児童虐待など</li> <li>7. 教師と児童・生徒②～児童・生徒の理解(発達段階に応じた理解を…) 児童・生徒の人間関係や抱えている課題、教師と生徒とのかかわり方などについて理解します。</li> <li>8. 教師と授業①～校種(教科担任制と学級担任制)の違いの視点から</li> <li>9. 教師と授業②～教師の表現力、ICTの活用 教師の仕事の中心である授業について、授業の実施だけでなく準備や今後の在り方について理解する。</li> <li>10. 教師の職場環境①～職場の重層化(チーム学校を含む)</li> <li>11. 教師の職場環境②～教員の任用とサービス</li> <li>12. 教師の職場環境③～教師間の協力 教員の職場環境は、教育改革・社会変化・労働環境の適正化などの状況により、仕事のありようが変化してきていることを理解します。</li> <li>13. 教師の成長①～教育実習・採用</li> <li>14. 教師の成長②～教師の資質向上と研修 教員としての成長は、教職生活を通して退職まで継続する。教職課程における教員資格取得から退職までの成長イメージを考える。</li> <li>15. まとめ・教師と現在の教育問題 本授業のまとめ及び今後学んでいくうえで必要な教育に関する基礎的な事項を理解します。</li> </ol>						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 大学の教職課程の概要と趣旨について理解する。</li> <li>② 教員の仕事内容と仕事の特性について理解する。</li> <li>③ 教職の専門性について理解する。</li> <li>④ 現代教育の課題と教員の役割について理解する。</li> <li>⑤ ①～④を踏まえ教職課程の受講者としての姿勢を考え、教員免許取得だけでなく教員として必要な資質について理解する。</li> </ol>						
授業時間外の学修	予習を行うこと(各1時間) 復習を行うこと(各1時間) 課題に取り組むこと(10時間) 参考書などを読み自己学習を深めること(10時間) レポートに取り組むこと(10時間)						
課題に対するフィードバック	レポートについては、返却する。この際に評価のポイントなどを簡潔に説明する。提出物・グループワークは、上記返却時に評価のポイントを説明する。	評価方法		事前課題 20点 授業レポート 20点(5点×4回) 授業への取組(グループワーク含む) 10点 テスト 50点			
テキスト	資料を配布する						
参考書	『教職概論 ?教師の仕事の本質と実際』『教職概論 第4次改定版 ?教師を目指す人のために?』 佐藤晴雄 学陽書房 教育制度論、教育六法 田中克佳 教育史 加野芳正 新しい時代の教育社会学 木村元 日本の学校受容  片桐芳雄・木村元 教育から見る日本の社会と歴史 神田嘉延 増補版『学校再生論の礎石?人間・国家・地域と学校?』 高文堂出版社 安彦忠彦・石堂常世 編著 『最新教育原理』 勁草書房  その他、講義中に適宜指示する。						
備考							